

全国や長野県より、自分で計画を立てて勉強することが少ないことと、将来の夢や希望を持っていないというものの割合が高い結果となっています。そのほか、次のような傾向が現れています。

【小学校の傾向と課題】

朝食を毎朝食べること、睡眠時間が適度であること、地域の行事によく参加することなど、全国や長野県より良い傾向が見られます。しかし、毎日同じ時間に起きる習慣がっていない、学校の授業時間以外の学習時間が少ない、家で学校の授業の復習をすることがやや少なく、家で学校の出来事をあまり話さない傾向にあります。

【中学校の傾向と課題】

家の手伝いをする事、あいさつができること、家で苦手な教科の復習をすることなど、全国や長野県より良い傾向が見られます。しかし、一日当たりの

調査の今後の活用

この調査の目的が「各教育委員会や学校等が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育及び教育施策の改善、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てること」であること

を踏まえ、教育委員会と学校は、児童生徒一人ひとりの可能性を伸ばすために次のような指導・支援を行います。

教育委員会は

- 1 本調査で示されているように、学力と生活習慣の間には大きな相関関係があるという結果から、基本的な生活習慣の定着と家庭学習の定着等について、地域・学校・家庭にさまざまな機会を利用して呼びかけていきます。
- 2 学校における具体的な改善

比較的正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子

学力調査結果と学習状況調査との関連を見ると、図1、2に示す項目において高い正答率を示しています。この関連は、小学校・中学校により多少異なっていますが、小中共通して、朝食を毎日食べ、予習・宿題を含めた家庭学習の習慣が身についている児童・生徒の正答率は比較的高いという傾向が出ています。小学校では、おおむね朝食を毎朝きちんと食べる、あいさつができる、きまりよい起床就寝など基本的な生活習慣が身についている等々の児童の正答率は比較的高いという傾向が出ています。また中学校では、家庭学習の習慣が身についている生徒の正答率が比較的高いという傾向が出ています。

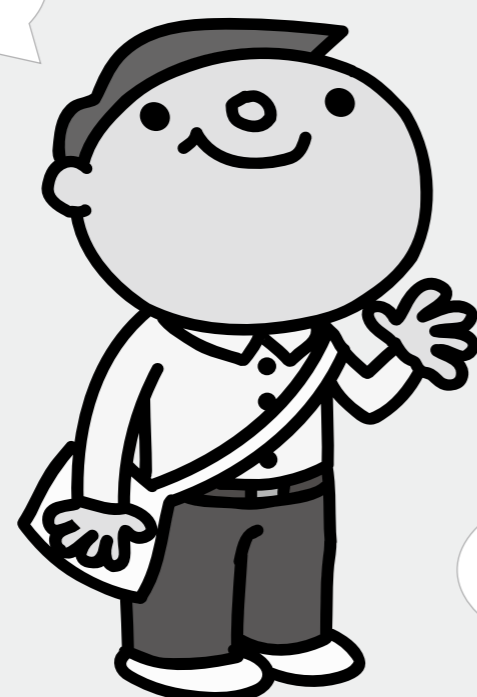
- 1 上記1のように、基本的な生活習慣の定着と家庭学習の定着等について家庭・地域にさまざまな機会を利用して呼びかけ、支援していきます。
- 2 個々の結果を基に児童生徒が自らの課題を知り、それを改善し、より向上を図れるように、児童生徒一人ひとりと各家庭へ適切に指導助言と支援を行います。
- 3 自校の傾向や課題を把握し、指導内容や指導方法改善に生かすようにします。
- 4 指導方法の改善を支援したる学習効果をより高めたりするため、市費単独加配教員（市費により、教員の標準定数に加えて配置された教員）を適正に配置するよう検討します。

図1 小学校の例



- 起床・就寝時間が適度である
- 朝食を毎日食べる
- 家で学校の宿題をしている
- 適度な睡眠時間がとれている
- 近所の人に会ったときはあいさつする
- 学校で友達に会うのが楽しい
- ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある

図2 中学校の例



- 起床・就寝時間が適度である
- 家で学校の宿題をしている
- 復習の習慣が身についている
- 家庭学習が習慣づいている
- ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある